

# この街 あの人 この人

## いちはらでの心温まる思い出を詰めて

### 脚本家 坂口理子さん



「小湊鉄道に乗るのが楽しみでした」

#### いちはらの自然で遊んだ子どもの頃

「小さい頃にいちはらの自然の中で遊んだのは、命は巡るとのこと」

そう話すのは、スタジオジブリ制作のアニメーション映画『かぐや姫の物語』や、この夏に全国公開されるアニメーション映画『メアリと魔女の花』などの脚本を手掛け、今や引っ張りだこの脚本家・

坂口理子さんです。坂口さんは、母親が市内の南総地区出身だったこともあり、休みになるといちはらをよく訪れていました。生まれが横浜の住宅街の坂口さんにとって、いちはらは最高の遊び場。山の中でピツやミカンを採ったり、タケノコを掘ったりして自然の中を走り回ることが大好きだったそうです。

#### 里山が教えてくれたこと

坂口さんは、学生時代から演劇に励み、映像会社へ入社しました。その後、「人に何かを伝えたい」という思いの下、演劇と映像に共通する脚本の道へ進みました。脚本家として活躍する現在も、いちはらでの思い出は坂口さんに大きな影響を与えています。「花が枯れ、種が落ちて、そこからまた芽が出て…里山で遊ぶ中で、おのずと自然の摂理を学びました」と話します。

#### 舞台を通じて気付きを提供

そんな坂口さんが脚本を手掛けた舞台

「しあわせのタネ」が、7月1日(土)に市民会館で上演されます。この舞台は、食



舞台のため市内の農家などを取材と命を主題にしたミュージカル。坂口さんが精力的に市内を取材したこともあり、劇中では加茂菜などのいちはら特有の野菜も登場し、オリジナルのストーリーが楽しめます。「『しあわせのタネ』は、結婚式が舞台のおめでたい話です。肩肘張らず、親戚の結婚式に来るような気持ちで見に来てください」。

見終わった後には、きっと心の中で幸福のタネが実っているはずです。

#### 舞台「しあわせのタネ」

日時 7月1日(土)第1部=午後2時  
第2部=午後6時開演  
料金 前売り= 3,500円、当日= 4,000円  
申込方法 窓口か電話で申し込む。  
申込・問合せ先 市民会館チケットセンター  
☎ 0570(043)043

## 文化の風 24

日常から心に潤いを

### いちはら伝統芸能体験事業

市では、華道や俳句、短歌など日本人が大切にしてきた伝統芸能の魅力を後世に伝えるため、今年度から「いちはら伝統芸能体験事業」を小学校で実施しています。姉崎小学校では、5月9日に「姉崎音頭」の体験教室を開催。「みんなと一緒に踊って楽しかった」と話すなど、児童約300人は市原市民舞協会の指導のもと、元気いっぱいに踊りました。



戦後から伝わる民謡「姉崎音頭」

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853

### 防災コーナー 61

#### ー 6月 は土砂災害防止月間ー 土砂災害への備えを

大雨などで土砂災害発生の危険度が非常に高くなったときには、「土砂災害警戒情報」が発表されます。危険箇所に住んでいる人だけでなく、がけ地に接する家でも土砂災害が発生する可能性がありますので、テレビやラジオなどで気象情報を入手するとともに、自分の家の周辺の斜面を確認してください。

また、日ごろから災害時における家族との連絡手段の確認や非常用持ち出し品を用意するなどの準備を行い、避難情報が発令されたら、すぐに避難行動を始めてください。



問合せ 危機管理課 ☎ 9823

## いちはら

# 歴史物語

### 101 いちはら文化財めぐり

#### 市指定有形文化財

#### 光厳寺本堂の欄間彫刻

#### 波を彫っては天下ー

「波の伊八」と呼ばれる江戸時代後期に南房総を中心に活躍した彫り物大工です。特に波を彫る技術が頭一つ抜けていたため、この通称になっています。また、動物・植物・人物などあらゆるものの表現にも優れ、その作品は現在、美術的にも高く評価されています。欄間など限られた厚さの板材を使いながら、対象を極めて立体的に表現できる技量は、他の追従を許さないもの

#### 自然への飽くなき探究心

でした。現在知られている初代伊八の作品は約70点あります。当時の彫り物大工には珍しく、活動範囲が房総にとどまらず、江戸・相模・伊豆など広域にわたっていたことは、彼の仕事で当時高く評価されていたことの証です。初代伊八は20代前半に作品を残しはじめ、73歳で亡くなるまで約50年間にわたり作品を作りました。自然への飽くなき探究心により、その技量は年を追うごとに進化し続けました。

#### 初代伊八の円熟期の作

市内大和田にある光厳寺本堂の欄間彫刻に、「波に龍」、中

国唐代の詩僧「寒山」。「捨得」を描いた3面があり、この作品には、年代が記されていないものの、その作風などから、初代伊八50代後半の作とみられます。今にも動き出しそうな龍の極めて立体的な造作、2人の僧の豊かな表情は、円熟期の高い技量を示すものとして必見です。市内では飯給の真高寺山門の彫刻に次いで2例目となるこれらの初代伊八の彫刻は、今年3月に市の指定文化財になりました。



初代波の伊八作「波に龍」

9853

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853